

令和4年度「福岡県保育所(園)長研修会」「保育者の集い」

開催日：令和4年11月28日(月)

会場：西鉄グランドホテル福岡 プレジールA

特別講演

『福岡県における保育制度の方向性について考える』

門田 理世

西南学院大学大学院 教授

《少し先の未来について考える》

1. 保育制度と義務教育との関係性について

- (1) 義務教育とのかかわりについて(保幼小中連携)
 - ・ カリキュラムの整合性
 - ・ 資格要件における課題(他職種との連携及び段階性の多様化)
 - ・ (地域)社会における子育てと就学の意識変容
- (2) 保育制度の義務教育化について
 - ・ 発達心理学からの脱却
 - ・ 教育学における保育学の位置づけについて
- (3) 保育制度と(地域)行政管轄の在り方について
 - ・ 接続期の行政機関について
 - ・ 福岡県における保幼小連携推進協議会などの設置状況から

2. 福岡県における保育制度の方向性について

- (1) 地域の特性を最大限に生かした柔軟な保育制度の発信
 - ・ 『ピンチはチャンス プロジェクト』過疎・高齢化・自然環境・経済困難等、一見ピンチに見える状況だからこそできる小さな実感を大きく発信する
例：世界が欲しい事例へと転換・地域避難訓練(カリキュラム)
- (2) 保育専門職の精練化
 - ・ 保育者ひとり一人の特性を活かした研修の提供(保幼小・各団体・自治体等でバラバラに提供されている研修の整理・統合)
 - ・ 特定知識技能保育者の育成と(県内限定の)資格化
- (3) 多様性を生きる子ども達と共に作る保育制度
 - ・ Education2030 を見据えた保育制度の再設計
 - ・ 子ども自らの内にある多様性に気付くことができるカリキュラムの創造

以上